

# 東北ダンプの



【発行】全日本建設交運一般労働組合(略称・建交労)東北ダンプ支部  
〒963-8025 郡山市桑野2-3-2  
建交労福島ダンプ分会内

2023年10月1日発行 NO.16

Tel024-933-4511 fax024-921-1868

Email : fukusimadanpu@mtj.biglobe.ne.jp

## ラグビーと使用促進闘争

現在、フランスを開催国として「ラグビーワールドカップ」が闘われています。ラグビーには馴染みがないという人も多いかも知れませんが、ルールや闘い方を知って来ると、自分たちの活動にも参考になることが沢山あります。

ダンプの使用促進闘争は、大きな相手(ゼネコンなど)とどの様に闘うかの作戦がないと、正面からぶつかるだけでは殆ど勝てません。ラグビーでは、体が小さくとも足が速ければ得点に、パスが上手ければ得点に繋がります。日本チームの強さは相手のスキを突くあたりにあると思います。

私が使用促進闘争に関わり始めたのは20年ほど前です。組合の会議で、1日当たり1万円の単価を引き上げようと訴えると、会議はしらけた雰囲気になったのを覚えています。

過去何十年も、単価引き上げなどの経験がない訳ですから、当然と言えば当然です。「もし、1万円の引き上げが実現すれば、逆立ちでグラウンドを一周する」との発言もあり、これは励ましの言葉と受け止めました。

現在では、53,000円(税別)が当たり前の単価になり、東北の経験を学んだ群馬では55,000円(税別)の回答を連続して引き出しています。組合の影響の薄い地域では、未だに36,000円(税別)程度であることを考えると、評価されて良い到達点です。

ラグビー後進国と言われていた日本が、こんなにも強くなったのは、世界をめざすという周到な計画と、先進国に負けない練習の成果だと思えます。使用促進闘争も、最初から発注当局やゼネコンと交渉出来たわけではありません。10年先を見据えた理論的な構築と、理論に基づいた連続した実践の結果です。ダンプ使用促進闘争の頂点は、もう少し先にあります。(M)



田子倉ダムより只見川下流を望む(福島県只見町)



## ボウリング大会

9月9日(土)東北ダンプ支部福島分会でボウリング大会を企画し、組合員20名と専従3名の計23名が参加しました。瀧柳執行委員長の開会のあいさつの後、日頃の運動不足も考えて怪我防止の観点から軽い準備体操をして、プレイを開始しました。

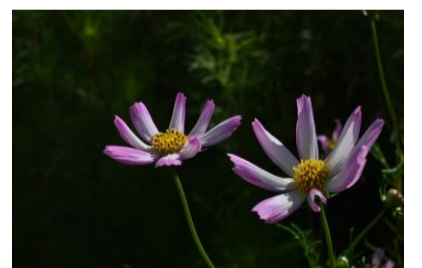
参加者からは、久しくやっていないなどの心配の声もありましたが、始めてみると歓声があちらこちらから上がりました。6レーンを貸し切りチーム対抗戦で競い、2ゲームのアベレージが高いチームが優勝。大勝負が繰り広げられました! いろんな意味で大盛り上がりでした。

「ストライク」や「スペア」が出ると、皆で喜びのハイタッチや大きな歓声飛び交い、コロナ前の状況を思い出しました。こういうイベントは最高です。

交流会は、東北ダンプ支部の永井副執行委員長の乾杯の音頭ではじまり、結果発表では全国ダンプ部会の森谷顧問からサプライズ賞の提供もあり、名前を呼ばれた組合員は喜んで受け取ってました。最後に優勝チームに金一封が渡されました。

## また企画してやろう

ボウリングを通して組合員同士の交流が図られ、組織としての団結が深まりました。参加者から「ボウリングいいね。楽しかった。また企画してやろう」の声が多数聞かれ、大成功だったのではないかと思います。この団結を今後の組合運動にも生かして繋げていきたいものです。



晴釣雨読(せいちょううどく)  
スコットランドにあるネス湖に伝わる謎の生物「ネッシー」が、九〇年程前に撮影された写真がきっかけで、恐竜のような長い首を持つ生物として震撼させた話題が、五〇年ぶりに話題沸騰してマスコミを賑わせている。▼南八甲田の「横沼」に棲む「ヨッシー」との出会い?を思い起こす▼城ヶ倉大橋より横岳山頂へ向かうと、高山植物が群生するお花畑に到達、お花畑は横岳中腹に位置し、八甲田山展望台や青森市内が一望千里の美しさに心が洗われる。中腹を後に露岩が多い道を下って行くと幻想的な景色が現れる。▼八甲田の伏流水が滝となり注ぐ、原生林に囲まれた神秘的な横沼に到着する。▼沼は逆川からの遡上などありえない標高差がある八甲田の山懐に位置し、この沼には居るはずのないイワナがいる。▼三五年ほど前、仲間と1泊2日の片道三時間の釣行記である。▼その日の沼は雲が厚く覆い、被り釣果も思わしくないことから、景気づけにビールで乾杯して昼食を早めに摂り再挑戦にした▼食後、開始間もなくの事、大滝近くに居た仲間が「きたー、喰った!!喰った!!」と大声で叫ぶ声、間近にいた仲間が叫ぶ「ぬげー、ぬげー」の声とほぼ同時に「パシヤッ、パシヤッ、パシヤッ!!」切れた!!の声と波紋だけが残り静まり返った▼二人の説明によると、「魚体の半分が見えた!!まさかメーターオーバーだ!!」二人の証言が今なお、言い伝わっている。▼横沼の謎の生物「ヨッシー」は未だに、捕獲されずに未確認のままである。

高橋 溪峰



# 建交労東北ダンプ支部 第2回定期大会

日時 2023年11月11日(土)13時～17時  
会場 福島市・穴原温泉「吉川屋」

大会終了後、団結懇親会をおこない、宿泊して翌朝解散します。代議員制で行います。代議員は以下のとおりです。  
青森 1、岩手 7、秋田 4、福島 16 合計 28  
※組合員15人に1人の代議員

## 政治と組合活動の関係は？

昨年の参議院選挙が終わった直後は「黄金の3年間」(3年間は国政選挙がない)という言葉がはやりました。衆参で3分の2を超える議席を、自公連立政権が持ったからです。3分の2の議席は、やろうと思えば憲法改悪まで狙える数です。

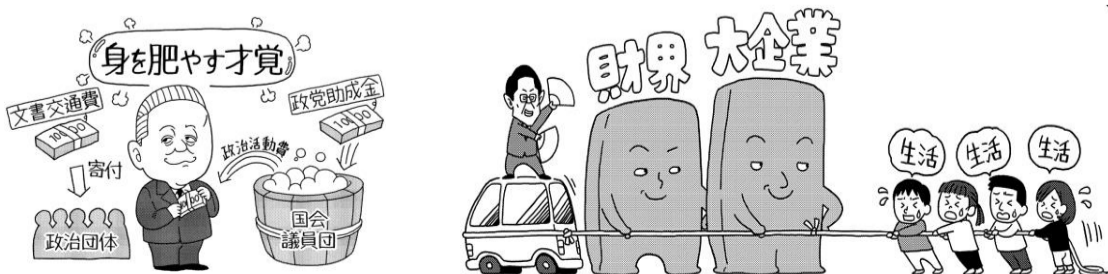
しかし、今の岸田政権は崖っぷち内閣と言われるように、いつ倒れてもおかしくない状態にあります。国会で圧倒的多数を持っていても、崖っぷちに居るのはなぜか。自民、公明は、4月の統一地方選挙で期待通りの結果を出せませんでした。岩手県の知事選などでは、圧勝するはずが大差で敗北しました。

インボイス導入や口先だけの少子化対策、野放しの物価高などに対して、有権者がカンカンに怒っているからです。10月から食料品だけでも4,600種類の値上げがあります。政権側に居る自分たちはというと、自民党女性局が大挙して観光旅行(名目は研修会)に行ったように、贅沢三昧を繰り返しています。東京-パリ間の飛行機のファーストクラスは片道でも250万円(エコノミーは19万円)ほどかけた旅行でした。全部、税金で支払われたものです。ここにも、国民の怒りが集中しています。

昨年5月に、全国ダンプ部会が共産党の武田参院議員に頼んで、1日8時間稼働のダンプ発注単価を、齋藤国交大臣に聞きました。大臣が資料を使って答弁した10tダンプの単価は、総額で76,000円(税別)になります。建交労でも、最高は群馬の55,000円(税別)、その次が北海道・東北の53,000円(税別)が現状です。建交労に加盟していないダンプは、3万円台が圧倒的に多く、設計単価の半分が建設業界にピンハネされています。これを正すのが国交省の仕事ですが、ゼネコンと強く結びついている自公政権はやりません。そもそも齋藤大臣は、国会議員になる前は清水建設の幹部社員でした。

最近の選挙では、投票率が50%を割るのも珍しくありません。「誰が当選しても、政治は変わらないから」と諦めている人が沢山います。アメリカのハリウッドでは、俳優や脚本家が5ヶ月間のストライキを闘い、掲げた要求を獲得しました。誰もが知っているリチャード・ギアがデモに参加したり、メルル・ストリープやレオナルド・ディカプリオらが多額のカンパを寄せました。不満や要求がある場合は、投票所に足を運んだり、積極的に労働組合に入って活動する必要があります。

ダンプ労働者が目標とする単価は、70,000円/日(税別)であっても全くおかしくありません。70,000円の稼ぎがあれば年間所得は600万円～700万円になります。サラリーマンと違い、国民年金だけの老後を考えると、この程度の稼ぎは必要です。組合に加入している仲間は、一般の国民と比べると政治が身近にあります。政治を語る組合幹部が近くにいて、機関誌にも政治の話題が載るからです。自分たちの要求を後押ししてくれる政治家・政党を見極めましょう。



## 秋田分会の事務所が床上浸水

9月19日、秋田市に記録的な大雨が降り、建交労秋田県本部・秋田ダンプの事務所があつという間に床上浸水しました。(上の写真左が玄関、右が浸水したコピー機、下の写真が事務所前の道路)

秋田市では7月に長雨で大規模な浸水被害があったばかり。今回は急激な多量の雨のため、雨水の排出が追いつかず、あわせて事務所脇の水路があふれ、周辺より少し低い部分にある事務所に水が押し寄せました。

目の前の道路の水位がみるみる上がってきたので、車を隣の一段高い県の共用駐車場に移動し間一髪難を逃れました。しかし、床にあったパソコンのモデムやコンセントの一部は完全に水没し、コピー機、冷蔵庫、ソファ、机の引き出しなどは部分的に水没し、ブレーカーが落ちました。エアコンの室外機は一部水没しましたが、基盤まで水が上がりず助かりました。水がひいてあらためて物差しで計ったら、水位が床上23センチに達していました。

気候変動が日本中で起きていて、誰もが災害の当事者になり得ること、コンクリートやアスファルトで固められた都市、耕作放棄で水田が荒れ山の広葉樹が減り保水力を欠いてしまった日本…に考えが及びました。

ドロが少ない水だったので、片付け・掃除はテレビで見るような困難さはありませんが、水を吸ってしまった紙類、木製品はカビてきて異臭を放ち始めています。

秋田市では災害ごみは、個人宅のものは無料で引き取ってくれますが、組合事務所は事業所の扱いとなるため事業系ごみとして、秋田市総合環境センターに有料でもちこまなければなりません。これからはその搬入の作業があります。

組合事務所は全労済協会の「法人火災共済保険」に加入していたので、建物・動産について保険請求することになります。この保険は、火災だけでなく水災、風災などにも保険金支払いの対象になっています。

被災当事者になって初めて見えてくるものがあります。大雨による水害は、かなりの部分、雨水の排水処置で防げます。事務所周辺の床上浸水は、40数年の間に今回を入れて3回ありました。有効な手を打ってこなかった秋田市の早急な水害対策が求められます。



我こそは原発大国なり



中秋の名月とコスモス